令和６年度後期終業式校長講話

令和７年３月２４日（月）

おはようございます。校長の鴨志田新一です。
今日は、令和６年度後期終業式です。令和６年度の１年間が終わります。

３月１０日には修了式があり、常盤高校で５年間学んだ生徒たちが、それぞれの　新しい世界へ巣立っていきました。新しいステージでの活躍を心から願っています。

４月には、８０名の新入生が入学してきます。また、皆さんも一つずつ上の学年に進級します。春休みは、この１年間の学びを振り返るとともに、新しい１年がスムーズにスタートできるよう、大切な時間を過ごしてください。

今日は、本校の校歌を作詞した宮澤章二（みやざわ　しょうじ）さんという詩人について、お話しします。
宮澤さんは埼玉県に生まれ育った人で、全国の小中高校の約３００校の校歌を作詞しました。東日本大震災に後の、テレビのコマーシャルで「こころは見えないけれど、こころづかいは見える　思いは見えないけれど　思いやりはみえる」といったフレーズを聞いたことがあるかもしれません。宮澤章二の「行為の意味」という詩です。

私は縁があって、今から２８年前　当時７６歳であった宮澤さんとお会いする機会がありました。その時に色紙をいただき、額に入れて、私の部屋に飾ってあります。色紙には「大花うつくし　小花うつくし」と書いてあります。
私はこの言葉を「大きな花も　小さな花も　自分のために花を開くからうつくしいのだ」オンリーワンであると解釈しています。スマップの「世界に一つだけの花」が発売される６年も前の話です。

また、彼は中学生のために、ある雑誌で約３０年間　毎月 1 編の詩を贈りつづけていました。それらの詩の一部が、「青春前期のきみたちに」という本にまとめられています。
本の一番、最初に載っている「君たちが歩くとき」という詩を紹介します。

君たちが歩くとき
君たちは一人ではない
隣にも　前にも　後ろにも
君たちの仲間がいる

仲間のすべてが　汗だらけの顔で笑う
仲間のすべてが　信じあう声で歌う

その顔にかがやく　君たちの希望
その声が呼ぶ　君たちの未来
君たちの心のカメラは
大自然のよろこびをとらえ
人間同士を結びつけるきずなの太さを写す

君たちが歩くとき
君たちは一人ではない
隣にも　前にも　後ろにも
同じ道を行く仲間がいる
互いに支え合う仲間がいる

この詩を看護の道を目指す、ここにいるすべての人に捧げます。
人間にはＡＩにはない知恵があります。勇気があります。恐れずに仲間と共に少しでも前に進みましょう

最後に「凡事徹底」についてお話します。当たり前のことを当たり前にする。私は、このことを「凡事徹底」と呼んでいます。
人間としての、生きる上でのマナー、礼儀、服装、あいさつ、これらのことを自然に行うことで、何事にも耐えることができる人間、志が高く、品格のある人間になることができます。

しかし、最初から自然に行うことはできません。最初は、意識して、徹底することで、自然となってきます。
春休み中も、今日のお話を思い出して、一日、一日を積み重ねていき、有意義な時間を送ってください。

それでは、４月８日に、皆さんが元気で会えるように事故や怪我のないよう、自ら気を付けてください。
何かトラブルが発生したときは、自分で解決しようとせず、必ず保護者や学校に相談をしてください。

私からは以上です。